



学校と家庭がつながるということ

連休前の4月26日(金)、雨。校門で子供たちの登校を待っていると、全校児童38名の子供たち全員が、傘をさして歩いて登校してきました。



とても、うれしい光景でした。

4月19日(金)のPTA全体会の折に、生徒指導主任から、登下校は、原則として徒歩であることをお話した後の初めての雨の日の登校でした。

学校側が、「登下校は、基本的に徒歩です。」「安全面としての集団登校の意味もあります。」と言ったことに対し、御家庭で、「学校の先生も、『雨でもがんばって歩いて登校するように。』って言ってたよ。少しぐらい濡れても大丈夫だから、がんばって登校しなさい。」と、子供たちを送り出して下さったのだと思います。

具体的な事実として、御家庭からの御理解と御協力をいただいたことを、ありがたく思った瞬間でした。本当にありがとうございました。

学校と家庭が連携していくことの大切さは、誰もがその重要性を認識し、口にするとところです。しかし、具体的な連携というのはなかなか難しいことです。

今回は、子供たちの登下校についてでしたが、これ以外のことも、一つ一つ、学校と家庭が思いを伝えあい、同じ方向を向いて子供たちを育てていくことは、子供たちのよりよい成長に直結します。

どうか、今後も学校と家庭がつながり、子供たちの育成を進めていけますようお願いします。